

## 巻頭言

今年も年次報告を刊行することが出来ました。寄稿してくれた皆さんに感謝します。

今年の当研究室は総勢 17 名、本学有数の大所帯となっています。3 つの研究グループから構成されていますが、良い協力関係の下に、良好な研究室運営が来ています。私は学生に恵まれ、大変幸せだったと思います。今年は研究の上でも特記すべき進展があり、競争率の高い研究助成に複数採択されました。これも、現メンバー、それから卒業生の皆さんのおかげです。

今号では、ベンチャー企業社長として活躍中の中間氏をはじめ、3 人の OB から寄稿をもらうことが出来ました。嬉しいことです。(中間氏の設立した有限会社 WarpStream については、[www.warpstream.co.jp](http://www.warpstream.co.jp) を御覧下さい。)  
「問題を解決しようとする努力」は、研究室生活でももちろん必要な事柄です。大学(研究室)は「決められた進度に従って知識を教えるところ」ではなくて、「問題解決の方法・姿勢を身に付け、学術研究を推進するところ」です。

今号では最後に、私自身の文章(分子研で過ごした日々)も載せてあります。

(2003 年 12 月 持田 記)